

# 反改憲運動通信

1部 200円

2005. 5. 19

No. 02

東京都千代田区三崎町 3-1-18 近江ビル4階  
TEL : 03-5275-5989 / FAX : 03-3234-4118  
E-Mail : han-kaiken@alt-movements.org  
Website : <http://www.alt-movements.org/han-kaiken/>  
年間定期購読料 4,000 円 (2005. 5~2006. 4)  
郵便振替 00190-7-11558 「反改憲」運動情報通信

## 5・3「九条実現」意見広告に大反響！ 《民衆の平和力》をもっと掘り起こそう！

今年の憲法記念日(5月3日)、市民意見広告運動は沖縄から北海道までの文字通り全国から幅広い賛同を得て、意見広告「九条実現—憲法9条を変えることにみんなで反対しましょう・改憲のための国民投票法案の成立をみんなで阻止しましょう」を『朝日新聞』と『毎日新聞』両紙の全国版に一面全部を使って掲載しました。広告の掲載を実現するために協力して下さった皆さんに深く感謝します。

市民意見広告運動は2003年5月以来、今回を含めて4度、全国紙や地方紙に意見広告を掲載してきました。しかしその中で今回は賛同伴数(約8800)、賛同者・賛同団体数(7776)、賛同金総額(3250万円)のいずれも最高を記録しました。広告掲載の規模についても同様で、一市民団体が全国紙2紙の全国版に一面全面の広告を掲載したのはこれまでに例がありません。

これほどの規模の意見広告の掲載が実現したのは、まず何より、改憲の足音が急速に近づいている極度に危うい政治情勢に非常に多くの人びとが危機感を募らせているからです。しかしマスメディアがどんどん右傾化している現状では、市民一人ひとりが自分の思いを公にする場は著しく狭められています。ですから意見広告運動があることを知ればすぐ参加を求める気運は広範に存在しています。実際、5月3日早朝から数日間、事務局の2台の電話は鳴りっ放しで、電話の8割は次期運動への参加の仕方の問い合わせでした。

もう一つ大切なことがあります。それは4度にわたる運動の持続の中で、それぞれの思いを《世論に訴え世論を変える方法》として意見広告が大きな力を持っていることが広く理解されてきたということです。今回全国に送付された振替用紙付きのチラシは23万4000枚でこの数も過去最高ですが、

これだけのチラシを手渡しや郵送で配布する人が無数にいたからこそ莫大な賛同金が寄せられたのです。「自分が動かないと広告の掲載は実現しない。9条改憲は阻止できない」と確信する市民主体が全国各地に多数輩出したということです。自宅で闘病中の人や入院中の人々が病床から友人・知人に手紙を添えてチラシを送るというケースも少なくありませんでした。

この4月に衆参両院の憲法調査会は改憲を想定した最終報告書をまとめました。国民投票法案の審議を可能にする国会法の改定が迫りつつあり、自民党は立党50年にあたる今秋11月15日に新憲法の草案を発表します。憲法改悪の動きは加速しています。しかし反改憲運動には今のところごく一部の人びとしか参加していません。《民衆の平和力》はまだ十分掘り起こされていません。あまねく存在するそれを噴出させねばなりません。

今回の私たちの広告には改憲派の人びとや右翼団体が激して反応し電話やFaxで抗議や罵詈雑言が数多く寄せられました。それは広告が憲法9条を変えることに反対する市民パワーの存在を鮮明にアピールし非常に多くの人びとを元気づけたからです。とりわけ広告に大書された「九条実現」には爆発的な支持が寄せられました。受け身ではない攻勢的な運動の拡大が切望されている証でしょう。自衛官の家族が支持を表明するなど広告は対話の広がりのおかげにもなっています。率直に思いを語り合い意見交換と交流によって思想豊かで強力な反改憲パワーが形成されるよう、市民意見広告運動はこれからいっそう努力を続けます。

(井上澄夫／市民意見広告運動・事務局)

◆野宿者支援運動の中にいると、「市民社会」から排除され基本的な人権が脅かされている者ほど、憲法とは無縁であると実感する。第25条「生存権、国の生存権保障義務」が自分の命を守ってくれている、などと思っている野宿者は皆無だろう。だからこそ、現在の改憲論議がやはり自分たちを排除した空中戦であることもよく見える。◆与野党の論議や衆参憲法調査会報告に共通しているのは、近代立憲制において国家を規制す

憲法喧嘩

るはずの憲法が、国民の「あり方」を規定する性質へとすり替わっていることだ。これこそ余計なお世話＝「押しつけ憲法」だ。◆「新しい人権」？ 環境権？ アクセス権？ まあ、それもいいさ。だが、現憲法の「古い人権」も守れていないこの国が、「実態に合わせる」改憲で、さらに増えた「人権」を守れるのか？ 地域住民の「環境権」「アクセス権」のために、野宿者を公園から強制排除している行政が。(なすび)

# 報告●広島 5・3 憲法記念日リレートーク

5月3日、広島市では三つの護憲の集いがあり行われました。そのひとつは、第九条の会ヒロシマの主催する5・3憲法記念日リレートーク。二つの集会は午後から別々に行われます。だったらせめて「一緒に街頭に立とうよ」と企画し、衆議院憲法調査会の地方公聴会が始まった2001年から5回目になります。各課題に取り組む人たちが、立場を超え、憲法改悪反対の一点で集い、市民の皆さんに、憲法の人権、主権、9条の大切さを訴えてきました。毎年、護憲イベントとしてマスコミも取材をします。朝11時から1時間半、広島一の繁華街で多くの人の行き交う中、賑やかに13組がアピールをしました。

始まりは護憲政党から。新社会党は元参議院議員の栗原君子さん、社民党は前衆議院議員の金子哲夫さん、日本共産党は広島市議の皆川恵史さん。栗原さんは「国民投票法案」の反対署名を呼びかけ、金子さんは「国会とりわけ憲法調査会の動きと、半数以上の市民が9条は変えてはならないと思っている。いかに永田町とかけ離れているか」を強調。続いて今年のリレートークのメイン、憲法集会に招かれたジャーナリストの伊藤千尋さん。コスタリカの青年が憲法裁判所に訴え、イラク戦争有志連合から自国の名前を消したことから、民主主義が平和を創ると力説されました。

このあと被爆者、強制連行し被爆させた戦後補償や在外被爆者問題、上関原発建設問題と日本の原子力政策、広島の厳

しい教育環境、教科書採択問題などが続きました。産婦人科医の河野美代子さんから「すざまじいジェンダーフリーバッシングを訴えたかったのに参加できず残念」とメッセージが寄せられ代読。ニューヨーク行きで不在の岡本三夫さん、湯浅一郎さんの代わりも女性が奮闘。また広島県内に広がりつつある「九条の会」のひとつ、三原から「毒ガスの大久野島があり広島への被害と被害を考えよう」と応援がありました。前原水禁事務局長の横原由紀夫さんに「アジアの人々の怒りをきちんと受け止め、一人一人が憲法問題を考え行動しよう」と締め括って頂き、各課題はどれも「人権問題であり憲法問題だ」と皆さん歌ありギターあり、様々なアピールで終わりました。

国民投票法案反対署名も呼びかけには、若い人が「9条を変えたら嫌だ」と素直に、またわざわざ駆け寄って署名してくれる人もあり、女性たちの頑張りで街頭にもかかわらず、この難しい署名に108筆が集まりました。

午後からの「輝け！九条、活かせ！憲法5・3集会」も様々な分野からの発言があったようです。一方、弁護士たち活躍の「マイライフ・マイケンポウ」は伊藤千尋さんも元気いっぱい。例年の3倍以上の若い人の参加で憲法ミュージカルも客席もとても熱気が感じられました。これらの力を合わせるべく11・3集会の準備を始めたいと思っています。

(第九条の会ヒロシマ／藤井純子)

## 報告●5・3 おおさか憲法のつどい

憲法9条を世界に広げよう！ 日本を戦争のできる国にする憲法改悪をゆるさない！

つどいを成功させる会（大阪弁護士9条の会・大阪宗教者九条の会・阪大9条の会で構成）の主催で、大阪城野外音楽堂に3100名を集めて開かれ、桂米朝さん（落語家・人間国宝）、吉田玉男さん（文楽人形遣い・人間国宝）ら14人によって4月25日に結成された「九条の会・おおさか」から呼びかけが行われた。「九条の会・おおさか」の呼びかけ人の一人である作家の藤本義一さんが記念講演をした。

藤本さんは、中学1年生になる45年3月の大阪空襲について語り、当時の体重は26キロ、お父さんの体重が37キロだったこと、お父さんが結核で入院、終戦後すぐお母さんも進駐軍のジープによる事故で入院し、闇市の連絡員をして両親の入院費を稼いだ。生活保護は認められず、日本はひどい国だと思った。大学時代、卒論のテーマを日本の雇用問題にして調べていくうち、55歳停年制や日本だけにあるボーナス（賞与）や手当の制度が明治の半ば頃にできたことがわかった。明治の考えが戦後も糸を引いている。こんなことで新憲法といえるのか、新憲法の中で一番すばらしいのは9条の戦争放棄だ、戦争放棄・非核3原則の日本をもっと誇りにすべきだ、贅沢な料理より子どもに役立つ大人の一言を与えてやってほしいと訴え、会場から大きな拍手。

講演の後はリレートーク。9条改悪に反対する契機はイラク戦争だった（下藤さん：高2）。定時制で初めて勉学に意

欲がでた、廃校は納得いかない（榎並さん：定時制4年）。60年間有形無形の差別に苦しんできたが、唯一の救いは憲法9条と教育基本法だった（金さん：在日韓国民民主女性会）。次いで木藤なおゆきさんが「あたらしい憲法のはなし」（文部省発行の昭和22年中学校1年用の社会科教科書）を引用しながら憲法漫談を披露し、笑いを呼んだ。

再びリレートーク。国民は思考停止状態だが、一番罪深いのはマスコミと大学だ（木戸衛一さん：阪大助教授、阪大9条の会）。平和は空気のようなもの、そのありがたみを感じてこなかった世代も多いが、9条を守って行かなくてはならない（石田法子さん：大阪弁護士9条の会）。宗教者が国家になびいた過去を反省し、世界の平和という視点で9条を守っていききたい（松浦悟郎さん：カトリック大阪教区補佐司教、大阪宗教者九条の会、「九条の会・おおさか」呼びかけ人）。

この後、津村明子さん（大阪府生活協同組合連合会会長、「九条の会・おおさか」呼びかけ人）が灯台の明かりのような憲法を絶対守るというつもりで生きていきたいと決意表明。森南海子さん（デザイナー、随筆家、「九条の会・おおさか」呼びかけ人）は、千人針との出会いを語った。

最後に、呼びかけ人、成功させる会など全員が壇上に並び、みんなで憲法を唱和して集会を終え、デモ行進に移った。

(大阪教育合同労組／斉藤郁夫)

## 報告●名古屋での「5・3集会」

毎年5月3日鶴舞公園の市公会堂で開かれる「憲法施行記念市民のつどい」はこの時期この空気の中にすっかり定着しています。愛知憲法会議が主催する第40回のつどいは、「戦後60年を問う平和と憲法」と題して開かれました。好天に恵まれ、開場前から長い行列ができて活気が感じられましたが、もう少し若い方が多いと良かったのにと思いました。

最終的には参加者は約2500人を数えました。聴覚障害者のために手話と要約筆記が用意されたのも、例年通りでした。

第1部は「わたしが憲法に託した思い」を、ベアテ・シロタ・ゴードンさんが話されました。5歳から15歳まで日本で生活していた今81歳のゴードンさんは、日本語で淡々と話されました。一人アメリカに渡ったゴードンさんが親との再会を果たすためにアメリカ占領軍の一員として再来日し、弱冠22歳で憲法起草に携わることになりました。日本側からは小娘がと思われていたようですが、苦学しながらすでに20歳前に大学を卒業し世界を歩き、ただの青二才ではないとの自負があったと言います。子どもの頃日本で見て知っていた男女差別を何とかしたいとの思いが、男女平等を規定する憲法24条〔家族生活における個人の尊厳・両性の平等〕に結実しました。ゴードンさんとしては、もっと具体的な規定をたくさん盛り込みたかったが叶わず、現在のような形になったとのことでした。

押し付け憲法と言いますが、世界中の憲法から良い所をとってきてできた憲法であり、最良のものを提供することを押し付けるとは言わない、と憲法改悪に反対する参加者にエールを送られました。

第2部は岐阜県出身のフォトジャーナリスト久保田弘信さんによるスライドとトーク「報道されなかったイラク戦争」でした。その前半は、空爆下のイラクで取材したビデオを編集したもので、2003年3月19日イラク侵略開始当日のバグダッドで、至近距離で着弾するという場に身を置いた久保田さん自身の体験など、いわゆる「恐怖と畏怖」作戦の恐ろしさが感じられました。罪の無い子どもを殺された親の悲しみと怒りが伝わってくる映像もありました。

最後は久保田さんも感極まり、憲法九条を守り二度とこんな悲しいことが起こらない世界を作ろうと、声にならない声で訴えられました。

最後に長らく愛知憲法会議の事務局長をされてきた名古屋大学副学長森秀樹さんのまとめと、定年退官後は教え子で新進気鋭の憲法学者名古屋大学教授本（もと）秀紀さんにバトンタッチするとの挨拶で会を閉じました。

会場の一室では、憲法絵手紙コンテストも開かれ、応募作品が展示されていました。今回が6回目です。

（寺尾光身／ピースアクション）

## 報告●長崎の5月3日 1500人で9条フェスタ

5月3日、長崎では市内の改憲反対運動が総結集した実行委員会による一大イベント「9条フェスタ」を行いました。実行委は「長崎県9条の会」と「ワールド・ピース・ナウ・ナガサキ」が改憲反対の個人と団体に呼びかけるかたちで組織され、老若男女が集まり、企画を練りました。市民運動、地区労・平和センター（社民党系）、県労連（共産党系）、カトリックの皆さんが結集し、同席したことになります。改憲反対運動の総結集という点においては画期的だったと言ってよいのではないのでしょうか。

当日は長崎市公会堂と公会堂前広場を借り上げました。公会堂ホールでは作詞家湯川れい子さんが「私の憲法第9条——音楽から見えてくる平和について」というテーマで講演。その後、「憲法9条を世界の宝に」というテーマでシンポジウム、シンポジストは、女性史研究家、被爆者、自営農を始めた青年、長崎大学に留学している韓国人の女子学生、カトリック長崎大司教、憲法学者という構成。

広場ではステージが作られ、19の個人と団体による音楽などの表現活動が行われました。他方テントも張られて20のブースが設けられ、書籍販売、チラシ配布、一万本鉛筆運動、署名活動などが取り組まれ、要するにあらゆる表現手段を繰り出しての「9条フェスタ」となったわけです。運営は1口千円の賛同金によってまかなわれました。

以下、ホールの舞台で司会をしていた西岡由香さんのまと

めを借ります。

——湯川れい子さんの講演も、感動的でした。南方で戦死されたお兄さまが口笛で吹いていた曲を、進駐軍ラジオで聞いたときの驚き。その曲を会場で流した後、声をつまらせながら「絶対に……戦争は……いけないんです」舞台そでで聞いていて、思わずもらい泣きしてしまいました。「話し合いで平和が築けなくなったときに来るのは、恐怖と無知です」「人の痛みがわかる人間にしか平和はつくれない」「憎しみには憎しみしか戻ってこない。人間はもっと進歩しなければ」やわらかく、ゆっくりとしたリズムで話される湯川さんの声はまさに「染みとおる」って感じでした。最後に、日本国憲法が施行されたときに新聞に掲載された吉田茂の言葉を紹介して、講演を閉じられました。（正確ではないかもしれませんが）「世界は今、一人の狂人を必要としている。軍備を持たないということは、今までの世界からみれば狂っていると思われるだろう。わが国が、世界にさきがけてその役目を担うのだ」シンポジウムでも素晴らしい発言が続き、野外ステージやブースでは、みんな日に焼けた肌に白い歯をのぞかせて思い切り歌い、踊り、呼びかけていました。およそ1500人の参加者の人たちと、5月3日をいっしょに過ごせてとても嬉しかったし楽しかった——。

（舟越耿一／市民運動ネットワーク長崎）



## 沖縄●調査作業強行許さず、新基地建設阻止の闘い続く

——歯をくいしばってがんばっています！ 現場は「24時間体制」で厳しくなっています。しかし命をかけて阻止しています——。沖縄・名護市の辺野古でボーリング調査・米軍の新基地建設阻止を続けている安次富浩（あしとみ・ひろし＝ヘリ基地反対協議会の共同代表）氏が去る5月13日夜、電話でこう語った。必死の海上での闘いのさなかでの訴えだ。

天然記念物のジュゴンがやって来る辺野古の海は、サンゴも生きておりクマノミもいるすばらしいところ。昨年9月からの新基地建設のためのボーリング調査強行で、その海上は様相が一変した。那覇防衛施設局の調査船、作業船、警戒船と阻止船、阻止のカヌーが行き交い、海上保安庁も出動。調査のためのやぐらが4基立てられているが、海底に穴をあける掘削作業は阻止されている。

工事はあと9年以上かかると防衛施設庁は発表。環境アセスも同時にすすめる、という。工事とアセスが同時ということ自体、アセスのインチキを示している。BBC放送も現場を取材して「世界でもまれな不屈の抵抗運動」だと報道した。

東京でも辺野古への支持・連帯の運動が起きている。沖縄・一坪反戦地主会関東ブロックなど31団体が構成する「辺野古への海上基地建設・ボーリング調査を許さない実行委員会」は、昨年6月以来毎週月曜日夜に防衛庁・防衛施設庁に

抗議行動が続いている。昨年9月、調査強行の動きがあった時は連日抗議行動を展開した。辺野古の現場で「今日は阻止できた、明日も阻止しよう」という対応で精一杯、東京で(中央で)国会で白紙撤回させてほしい——という平良夏芽(たいら・なつめ=平和市民連絡会の共同代表)氏の呼びかけに応えたものだ。

那覇防衛施設局は去る４月２６日から調査の夜間作業を始めた。このことについて防衛施設庁の河野孝義建設部長は去る５月１２日、参議院財政金融委員会で、糸数慶子氏（無所属）の質問に答えて「夜間作業の実施是那覇防衛施設局が判断している」と述べ、作業内容や夜間作業を実施するかどうかは現地で決定していると明らかにした。夜間作業は危険ではないかということについては、「各足場を早朝から夕方まで反対派に占拠され、安全にボーリング作業ができない状態が続いている」と語り、反対派の抗議行動のせいにした。

安次富氏は東京の支援者に、「新たなやぐら建設の動きも阻止できました。あと一步のところですよ！ みなさんの支援が県民の支えです」と言っている。あと一步、政府を追いつめるまで、辺野古への支援・協力を強化しようではないか！

(辺野古への海上基地建設・ボーリング調査を  
許さない実行委員会／文責・吉田)

# 運動のメディア……自己紹介

8年前、PP研がまだ「準備会」の名称で発足に向けて準備をしていたときに（私はこの頃まだPPのピの字も知らないのだが）、A4サイズ20ページ程度の『ピープルズ・プラン研究所ニュース』という会員向けニュースが発行されていた。この紹介文を書くにあたって、改めてそれらを読み直してみた。そして、「初めまして、PP研とは……」とすらすら紹介文を書くには、「PP研のなんたるか」はやはり壮大でむずかしい、ということを実感している。

設立につながったのは1989年から96年にかけて、日本やアジア地域で広くおこなわれたPP21（ピープルズ・プラン21）と呼ばれるプロジェクトで、これは当時各地で取り組まれていたオルタナティブを目指す多様な試みを結びつけ、経験を共有することを目指したものだ。この中から生まれた大きなエネルギーをバネにして、PP研は生まれた。ジェンダー、反差別、社会運動、民主主義、グローバリゼーション、反戦・反基地……さまざまな課題をめぐって討論し、行動につなげる試みを通して「オルタナティブ」をさぐる。設立8年を経た現在もなお、ここにPP研のチャレンジがある。

このコーナーのタイトル、「メディア」としての具体的な取り組みをあげると、年四回の『季刊ピープルズ・プラン』の発行がある。研究会、ラウンド・テーブル（オープンな議論の場）、シンポジウムなどを企画・開催しながら、「勉強」だけでなく「運動」の力となるような議論、提案を投げかけ続けて

いる。また2003年に「第2期」に入って立ち上げた「国際部」は、1年をかけて英文ウェブサイト“Peopl's Plan Japonesia”のスタートに漕ぎつけた。日本から海外へ向けて、さまざまなテーマに対するラディカルな提言や分析を発信し続けることを、PP研独自の取り組みとして定着させたいと考えている。

改憲問題への取り組みは、ここ半年とくに集中的にエネルギーをそそぐ中で、研究会を立ち上げ、シリーズの書籍出版も始めた。研究者からは“ものたりない”、運動の現場からは“こむずかしい”、とのそしりを受けることをあえて恐れず、その両者をつなぐ議論提起、運動提起をめざしている。ともに、「反改憲」の流れを大きくしていくために！

(ピープルズ・プラン研究所事務局／塩沢)

ピープルズ・プラン研究所

★〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-15 サンライズ3 F (tel & fax : 03-5273-8362)

e-mail : [ppsg@jca.apc.org](mailto:ppsg@jca.apc.org)

<http://www.jca.apc.org/ppsg>

★会員拡大キャンペーン実施中です。資料をご請求ください。

★【5/3発刊しました！】シリーズ〈「改憲」異論〉①『改憲という名のクーデター——改憲論の論点を斬る』（1,000円（税抜き）現代企画室発行） ②以降も、企画・編集集中！

# ▶反改憲◀ ニュースクリップ 2005年 5月1日～5月14日

【5月1日】ブッシュ政権が提唱した大量破壊兵器が拡散するのを阻止する枠組み「大量破壊兵器拡散防止構想」に、自衛隊が実力行使を伴う乗船検査を含め、参加することが明らかに。これまでは近隣諸国を刺激することを恐れ参加を見送ってきた。▶国民投票法案の今国会提出が見送られる方向に。法案提出は秋の臨時国会に先送りされる見通し。▶民主党の岡田代表が次期衆院選に向けてまとめた外交・安全保障政策提言案「『開かれた国益』をめざして」の全容が明らかに。「東アジア共同体」構想の推進を打ち出したほか、PKOに自衛隊が積極的に参加するため、任務遂行目的の武器使用を容認するなどPKO参加5原則の見直しを提唱。民主党が政権を取った場合の基本方針を示したもの。

【5月2日】自民党の安倍幹事長代理がワシントンの米務省でライス国務長官と会談。安倍は、北朝鮮の核問題を巡る6者協議について、「国連安保理での協議を検討することも必要」と述べ、ライス長官も「6者協議とは別の手段を」と応じた。また安倍はワシントン市内で講演し、「憲法を変えていこうという国民の決意と精神を、頑迷な護憲派の人々も無視できなくなっている。(憲法改正で)さらに高度な国際貢献が可能になる」と憲法改正への意欲を表明。また、集団的自衛権の行使については「これまでの政府解釈は限界にきている。我々の世代の責務の一つは、政府解釈を変更して、行使を可能にすること」と語った。また、中国が小泉首相の靖国神社参拝の中止を求めていることについて、「小泉首相の次の首相も靖国神社に参拝するべきだ。国のために戦った方に尊敬の念を表することはリーダーの責務だ」と述べた。そのうえで、「靖国神社に参拝しても決して軍国主義になったわけでもなく、日本は戦後60年、平和な国としての道を歩んできた。中国は共産主義の国で、信教の自由がない。彼らがやっていることは内政干渉で、日中平和友好条約に違反している」と述べ、中国の対応を批判。

【5月3日】小泉首相がオランダ首相と会談。小泉首相は、第2次世界大戦中のオランダ人捕虜への虐待事件を踏まえ、「多くの国々の人々に多大な損害、苦痛を与えた事実を謙虚に受け止め、これまでも深い反省と心からのおわびの気持ち」を表明。

【5月5日】米軍の世界的再編・変革をチェックする米連邦議会が中間報告を発表。沖縄の海兵隊については、「東アジアでの作戦行動のかなめ」であるとし、東アジア情勢を理由に海外移転に反対。普天間飛行場の機能は嘉手納基地から山口県岩国基地に移転させ、その他の海兵隊施設は全て沖縄に残すべきと勧告。▶日韓両国の歴史専門家による歴史共同研究委員会は、日韓両政府の局長や民間の委員でつくる合同支援委員会にたいし、共同研究の最終報告書を提出。韓国側は歴史教科書の研究の成果を反映させるよう主張したが、日本

側は教科書検定制度になじまないとして応じず。

【5月6日】訪韓中の武部勤自民党幹事長と冬柴鉄三公明党幹事長が盧武鉉大統領と会談。大統領は、竹島や歴史教科書問題をめぐる日本の政治家の発言などを取り上げ、「これまでの反省や謝罪を無効にするような日本の政府、政治家、政界を主導する勢力がある」と指摘。「これが繰り返される状況では、真の意味の謝罪ではないと受け止めざるを得ない」と述べた。

【5月8日】旧ソ連の対独戦勝60周年記念に参加する中国の胡錦濤国家主席と韓国の盧武鉉大統領が、北東アジアの平和と繁栄のために歴史認識の問題が何よりも重要だという見解で一致。▶民主党の菅直人元代表が、日中間の歴史認識問題に関連し、「日本自身がやったことを日本人がどう判断するかが問われている」「日本自身が、日本の負ける戦争をやった責任を何一つ問わなかった。天皇陛下は退位されたほうがよかった」と、終戦時に昭和天皇が退位することで戦争責任を明確にすべきだったとの考えを示す。

【5月9日】「対独戦勝60」式典出席のためモスクワ訪問中の韓国の盧武鉉大統領がアナン国連事務総長と会談。国連改革について「アジアを代表して安保理の常任理事国になるなら、アジアの支持を受けなければならない」と述べ、歴史問題で中韓の反発を買っている日本の常任理事国入りに事実上反対する姿勢を示す。

【5月10日】文科省が教育基本法改正の要綱素案をまとめる。「愛国心」に関しては、国を「愛する」と表現する方針。また前文に「公共の精神の尊重」や「日本の伝統の継承」などの理念を挿入。

【5月11日】「皇室典範に関する有識者会議」が会合を開き、皇位継承の新しいルールについて、①男女を区別せず第一子優先、②原則として第一子優先だが、同じ兄弟姉妹のなかでは男子優先、③男系男子の後に直系優先等、④男子を優先し、その後に女子、の4つの類型に分ける。

【5月12日】在日米軍の再編を協議している日米両政府が、日本有事の際の「共同作戦計画」や、周辺事態での「相互協力計画」の本格的な策定作業に入ることが明らかに。6月に共同文書で確認される計画の内容は、97年に改定された日米新ガイドラインにもとづくもので、中台紛争も念頭におかれており、米軍に提供する空港や港湾など民間が利用する施設も含まれる見通し。これにより、日本は米国の軍事戦略に一層深く関与することになり、中国など近隣諸国の反発が強まることは避けられない。

【5月13日】4月29日の「みどりの日」を「昭和の日」に、5月4日の「国民の休日」を「みどりの日」に変える祝日法改正案が成立。社民、共産は反対。▶キューバのグアンタナモ米軍基地で米国捜査官がコーランを冒流したとの報道を機に、反米デモが世界のイスラム社会に拡大。アフガニスタンではタリバン政権崩壊以来最大の反米デモが発生し、同日少なくとも9人が死亡。暴徒化したデモによる死者は今週、16人に上る。また反米デモは、パキスタンや世界有数のイスラム国家インドネシアでも平穏にも広がる。パレスチナのガザ地区では、ハマス主導で数千人が難民キャンプをデモ行進。ヨルダン川西岸ヘブロンでもパレスチナ人数百人がデモ行進。

【5月14日】キャンプ座間への米陸軍第一軍団司令部移転に反対する署名が、住民の5割弱にあたる6万人分集まる。



# 私も一言 ②

天野恵一 (派兵チェック編集委員会)

憲法「改正」を阻止する運動をめぐる状況は厳しい。国会の中では最大野党のはずの民主党は、もう一つの改憲を目指す政党である。今後、自民党や公明党の改憲プランと民主党案が調整されていく政治プロセスに入っていくのであろうが、彼等は平和憲法・人権憲法を破壊してしまう方向での改憲という基本路線は一致しているのだ。そして、マスコミは、改憲は当然、問題は、どういう改憲かということだという今日のムードをつくりだすことに、こぞって力を発揮してきた。

国会の中で改憲手続きの進行を阻止していく強力な動きが出てくることは、ほとんど期待できない。そうすると、マス

コミが支配する「改憲」ムードを突き崩して、国民投票で過半数の反対を実現するための運動づくりを、ということにならざるをえない。

必然的に、国民の多数が結集できる運動路線をとということになり、少数派の反対意見など、できるだけ公然化させずに、運動を分裂させたり、内部の対立が明確になるような論議は押さえ込んでしまうべきだという多数派形成のための政治配慮が優先する傾向が強くなっていく。しかし、私たちは今、こうした「幅」のために論議を閉ざしていくスタイルでの運動とは、まったく別の運動をつくりだしていくべきだと思う。

現憲法に対する批判的な意見(もちろん平和・人権主義の立場からのそれ)をも含めた多様な「反改憲論」が、広く集められ、鋭い論議が組織され、意見の対立が運動の分裂をではなく、広いまとまりを力強くつくりだしていくという、あまり成功したことのないスタイルの運動が、この改憲問題でこそ、つくりだされる必要があるはずだ。この困難で切実な課題は、前号の「私も一言①」欄で吉川勇一の言う「共同行動のあり方」の問題と重なっているはずだ。

## 集会・行動情報 5/21~5/29

▶5/21(土)「反日批判」報道の渦中から「昭和」再構築を考える◆14:00~◆立川女性センターアイム(中央線立川駅北口)◆太田昌国(編集者)◆主催:第35回反天皇制運動全国交流合宿(問:反天連/03-3368-3110)

■自衛隊再編の行方(仮)◆18:30~◆山本英夫(派兵チェック)◆宇都宮市総合コミュニティセンター◆主催:憲法を生かす会・栃木(<http://www2.ucatv.ne.jp/kenpou.snow>)

▶5/26(木)とんでもない! 改憲国民投票法案◆18:30~◆三輪隆(埼玉大学、憲法学)◆文京区民センター(地下鉄春日駅)◆国連・憲法問題研究会(<http://www.winterpalace.net/kkkm/> 03-3264-4195)

▶5/27(金) 憲法と教育基本法を考える市民フォーラム◆18:30~◆内藤光博、浅羽晴二◆三鷹市協働センター2階会議室(三鷹駅南口)◆500円◆主催:憲法と教育基本法を考える三鷹の会(0422-44-0364)

■有事法を発動させない! 憲法9条改憲に反対する5・27集会◆17:30 開場、18:30 開始、19:45 デモ出発◆日比谷野外音楽堂(霞ヶ関駅、内幸町駅)◆主催:同集会実行委員会(呼:陸海空港湾労組20団体など)

▶5/28(土) 戦後国家と反戦・平和運動の歴史を考える——『占領と平和—(戦後)という経験』を素材に◆17:00~◆新宿コスミックセンター(JR高田馬場駅、新

大久保駅)◆武藤一羊、伊藤晃、天野恵一、道場親信◆問:ビープルズ・プラン研究所(電話/Fax:03-5273-8362)

■市民憲法講座第1回「国連から見える日本国憲法」◆18:30~◆文京区民センター◆河辺一郎(愛知大学教員・国連問題研究)◆主催:許すな! 憲法改憲・市民連絡会

▶5/29(日) 戦争の民営化とは何か?◆13:45~(13:30開場)◆本山美彦(京都大学教員、国際経済学、『民営化される戦争』著者)◆文京区民センター/3C会議室◆資:800円◆主催:グループ武器をつくるな! 売るな!(電話:03-5275-5989/Fax:03-3234-4118)

■原爆放射線のヒトへの影響について◆14:30~◆広島平和記念館資料館地下◆鎌田七男(広島大学原爆放射能医学研究所元所長)◆500円◆主催:原爆投下を裁く国際民衆法廷・広島実行委(082-211-2441)

★毎週月曜日:辺野古へのボーリング調査を許すな! 防衛庁抗議行動◆18:30~19:15◆防衛庁前◆主催:辺野古への海上基地建設・ボーリング調査を許さない実行委員会(<http://www.jca.apc.org/HHK/NoNewBases/NNBJ.html>)※抗議文・要請文などお持ちの方は、お申し出下さい。順番に読み上げて渡しましょう。団体・個人を問いません。  
★各地での様々な取り組み、是非編集部にお寄せください。集会・行動情報については、本紙WEBサイトにも掲載中!

事務局  
から~

◆『「反改憲」運動通信』を、ぜひ定期購読してください! ①郵送、②Fax、③電子メールに添付のPDFファイル——のいずれかでお送りします。お申し込みの際に、送付方法を明記してください。

◆年間定期購読(2005年5月~2006年4月/月2回発行/24号分)費は4000円です。

◆定期購読費は郵便振替で▶口座番号:00190-7-11558/加入者名:「反改憲」運動情報通信

★「読者の声」を募集します! あなたの「声」をお寄せください。100字前後でお願いいたします(匿名希望の方は、その旨を明記してください)。